

水鏡山鳥奇經

一

10

15

20

25

30

A527

假名垣魯文著

明治十四年
四月新刺

水鏡山鳥奇譚 全四冊

東京書肆
辻岡文助版



水鏡山鳥奇譚初編換序

天地の大戯場ありて萬物會小戯場成べし。予粵一の戯場ありて坐元を
 棹元といひ立物を棹史とよみ本舞臺三間ありて其合して四冊を規矩とよみ
 衆屋ハ則作者の腹の皮彼を殺し是を活まの役割まれば画工が真実
 振付に色香を配る花道ハ因櫻の木必登せど價ハハット船の高
 主向ありぬ外計り去ども藝云ふハ身を入て綴令魂魄の如く跡ハ引とも
 焼酎火の如く立消のする緯あり一切引馬の声色を用まるとハ虫蛇も
 足を付拍子の譏りハ道る牙ありんを御具負厚き者官様方初
 編初日の幕明とよみ大切の大團圓とよみ下座の太鼓と鳴渡り永當
 の御評判の程偏奉願候

元洛二龍集乙丑
孟取開鏡

鶴亭秀智戲記



48-7647



老
母
越
路

妻
左
盛
門



異
人
珠
詳



潜
竜
子
重
太
郎

白
須
賀
の
潜
人
就
湯
塚
潜
龍



時
方
の
娘
山
鳥
実
八
郎
時
員
女
特
若
と
渾
名
也

安
房
國
天
輔
の
長
者
渡
鳥
左
門
時
方



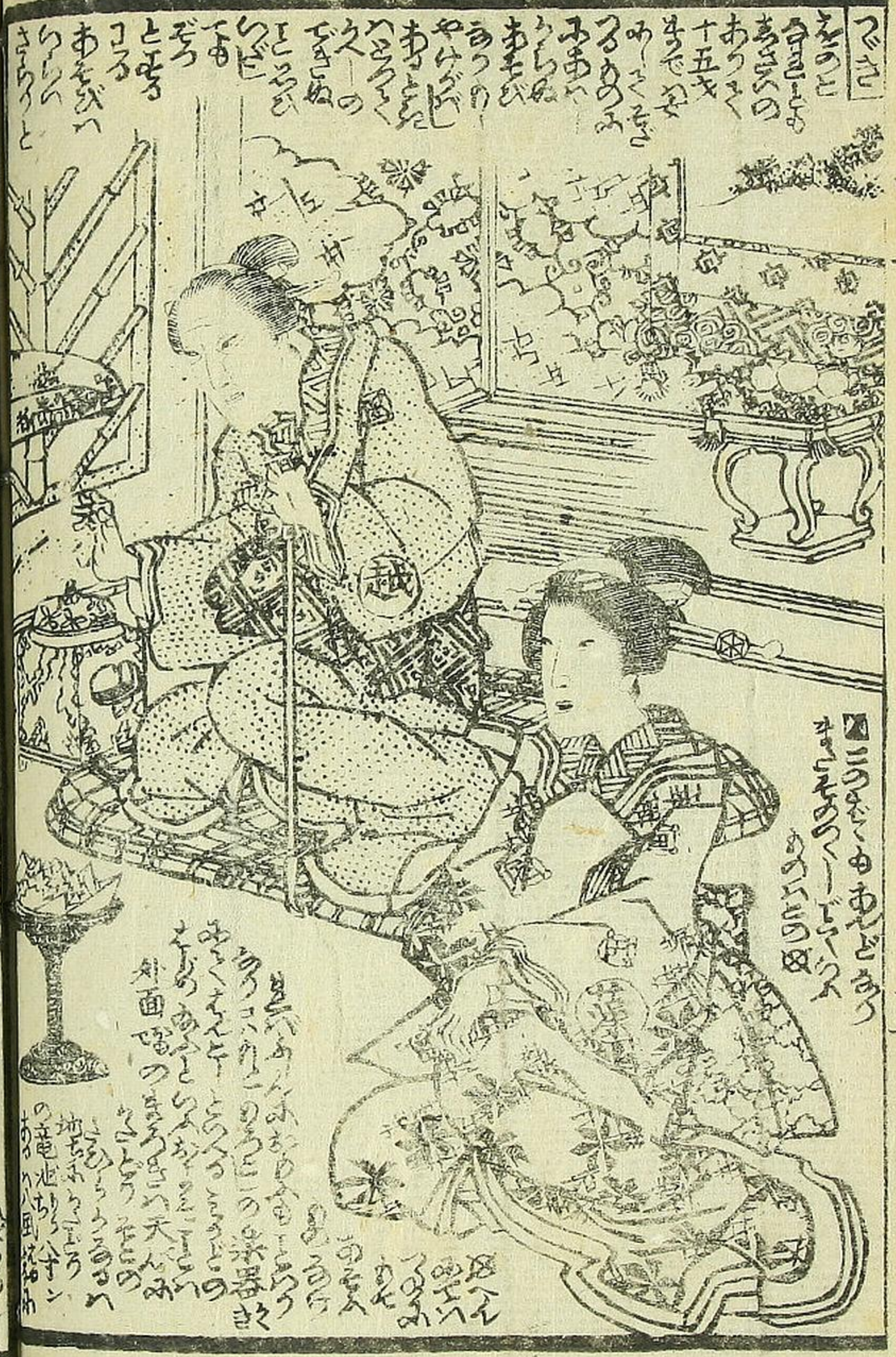




あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく

あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく

あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく



あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく

あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく

あつちを
つたふく
さむく
あつちを
つたふく
さむく

二

二

此魚名曰鰻魚其性最毒
不可食之其鱗如刀割人
肉其毒入骨則死矣其魚
之長可至數丈其鱗之厚
可至數寸其魚之皮可製
成衣其皮之堅可敵鐵甲
其魚之骨可製成藥其骨
之毒可治百病其魚之尾
可製成扇其尾之輕可扇
風其魚之頭可製成冠其
頭之重可壓人其魚之尾
可製成鞭其尾之硬可打
人其魚之骨可製成刀其
骨之利可殺人其魚之皮
可製成履其皮之滑可穿
鞋其魚之鱗可製成鏡其
鱗之明可照人其魚之尾
可製成扇其尾之輕可扇
風其魚之頭可製成冠其
頭之重可壓人其魚之尾
可製成鞭其尾之硬可打
人其魚之骨可製成刀其
骨之利可殺人其魚之皮
可製成履其皮之滑可穿
鞋其魚之鱗可製成鏡其
鱗之明可照人

此魚名曰鰻魚其性最毒
不可食之其鱗如刀割人
肉其毒入骨則死矣其魚
之長可至數丈其鱗之厚
可至數寸其魚之皮可製
成衣其皮之堅可敵鐵甲
其魚之骨可製成藥其骨
之毒可治百病其魚之尾
可製成扇其尾之輕可扇
風其魚之頭可製成冠其
頭之重可壓人其魚之尾
可製成鞭其尾之硬可打
人其魚之骨可製成刀其
骨之利可殺人其魚之皮
可製成履其皮之滑可穿
鞋其魚之鱗可製成鏡其
鱗之明可照人



鶴亭秀賀作の二燃鳥齋國周画

010190513780

